



平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

菊川市の子どもの体力と運動意識

子どもの体力の状況を把握・分析するため、全国の小学5年生・中学2年生を対象に「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が行われました。この調査結果を学校での体育・健康に関する指導や家庭での取り組みに活用し、子どもの体力の向上を目指します。

問い合わせ 学校教育課学校教育係(中央公民館内☎73-1113)

全国・静岡県平均との比較

小学生		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
5年男子	全国との比較	▲	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	県との比較	▲	○	▲	▲	▲	▲	▲	○	▲
5年女子	全国との比較	▲	○	▲	○	○	▲	○	○	▲
	県との比較	▲	○	○	—	▲	▲	▲	○	▲

中学生		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
2年男子	全国との比較	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○
	県との比較	▲	▲	○	○	○	○	▲	○	○
2年女子	全国との比較	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○
	県との比較	▲	○	▲	○	○	○	▲	○	○

○:平均より高い場合 —:同値の場合 ▲:平均より低い場合

※全国・静岡県の平均を100としたときの菊川市の平均を数値化し、それをもとに、全国・県平均と比較。

結果からみた考察

小学生は、男女ともに全国・県の平均値を下回る種目が多く見られ、体力合計点も低い結果となりました。

中学生は、男女で「握力」「立ち幅とび」、男子で「上体起こし」、女子で「長座体前屈」が全国・県の平均値を下回りました。しかし、それ以外の種目では、全国・県の平均を上回る結果となりました。

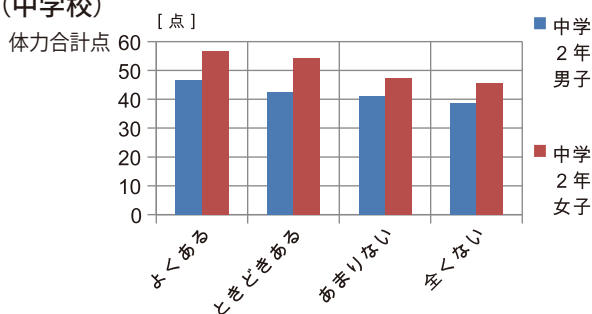
こうした結果は、市の中学校における運動部への加入率が高いことが要因の1つであると考えられます。

今後は、小中学校ともに授業や部活動などで、運動に親しむ機会をさらに増やし、児童生徒の体力をバランスよく高めていきます。

家庭生活・運動状況

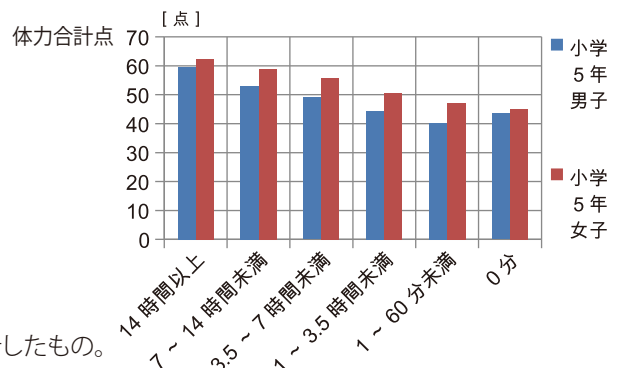
運動習慣や運動意識などに関するアンケート調査の結果と体力合計点との相関関係を分析しました。子どもたちの生活習慣が運動能力にどのような影響を与えるのか、その分析結果の一部を紹介します。

● 運動部やスポーツクラブ以外で運動をすることがある(中学校)



※体力合計点とは、各種目の成績を1点から10点到点数化して合計したもの。満点は80点。

● 1週間の総運動時間(小学校)



● 結果からみた考察

上のグラフからもわかるように、運動する機会が多い児童・生徒ほど、体力合計点が高い傾向にあります。運動教室やスポーツクラブへの加入に関わらず、日常的に体を動かす習慣が大切であると考えられます。

運動習慣の定着や運動に対する意識の高さが、子ど

もたちの体力向上につながります。家庭においても、体を動かす気軽な親子遊びをしたり、さまざまなスポーツへの挑戦を促したりすることが大切です。また、できたことに対してほめるなどの言葉かけも運動習慣の定着に効果的です。